

*造幣局製造の日曜表メダル9枚を収蔵

日曜表メダルはあまり知られていないもので、筆者もこの記事を書くまでその存在を知らなかった。アーカイブ室新聞第16号(2008年6月4日)に「佐藤明達氏の天文学関係書籍の提供がある!」という記事を書いた。佐藤明達氏は「談天の会」の大御所的存在で、2008年5月31日に国立天文台輪講室で開催された第40回の「談天の会」で氏にお会いした際、「私は末期高齢者でもう長くは生きていない、自分のもっている天文学の書籍、資料を譲りたい、まだ手元においておきたい書物もあるので、今すぐ全部をとというわけにはいかないが、今現在譲れるもののリストを渡すので選んでもらいたい、そして自分の死後には、天文学関係の書籍、資料は総て国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室に譲るよう息子に言うておく」と言われたのである。

2011年にこの言葉とは少し違った形で大阪電気科学館に長くお勤めであった佐藤明達氏から所蔵の図書などの寄贈が国立天文台図書室にあったのである。アーカイブ室に譲ると言われたものはほとんどが書籍であったためかなぜか図書室に筆者が知らないうちに寄贈された。そして図書室として受け入れるには不適當なものをアーカイブ室で引き受けていた。アーカイブ室で引き受けたもののリストの作成さえしないでしたが、今回、その中に珍しいものを見つけた。9枚のメダルを綴り紐で束ねたものであった(写真1)。



写真1 9枚のメダルを束ねたもの

それらのメダルは銅製で「造幣局製」と刻印(写真2)され、その年の日曜と祝日が刻まれ吊り下げられるようになったメダルである。それが表題のメダルと気づいたのは天文情

報センターの仲間に「珍しいものがあるよ」と見せていたら、すぐにインターネットで「日曜表メダル」というものだと調べてくれた御仁がいた。日曜表メダルを検索するといろいろな情報が得られ、このメダルは造幣局が製作していたものであった。



写真2 造幣局製の刻印

造幣局は500円硬貨を初め貨幣の铸造だけでなく文化勲章・オリンピックメダルなども発行しているが、日曜表メダルはほとんど知られていないようだ。日曜表メダルは戦後もなくの1948年（昭和23年）から2006年（平成18年）までの59年間発行されたカレンダーメダルである。この日曜表メダルは59年間も発行された歴史があるのに知名度が低く、古銭屋・骨董屋などのプロに聞いても日曜表メダルの名前を知らない人が多いのだそうだ。このメダルには干支の動物が刻まれていてなかなか面白いものである。それならば12枚で終わるとか、60年で終わるなら分かるが59年で終わっている。インターネットで調べるとそのほとんどの映像を見ることが出来るが、筆者の手元に収集した9枚を紹介する（写真2）。



写真3 9枚の日曜表メダル

今回収集したものは写真3で見えるように上段左から1966年（午）、1965年（巳）、1962年（寅）、1961年（丑）、1957年（酉）、下段左から1970年（戌）、1969年（酉）、1968年（申）、1967年（未）の9枚である。

その裏面が写真4である。



写真4 9枚の日曜表メダルの裏面

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp